

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成30年10月11日 (2018.10.11)

【公開番号】特開2017-58785(P2017-58785A)

【公開日】平成29年3月23日 (2017.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2017-012

【出願番号】特願2015-181119(P2015-181119)

【国際特許分類】

G 0 6 F 12/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 12/00 5 1 3 J

【手続補正書】

【提出日】平成30年8月29日 (2018.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

また、クライアント装置 1 は、入力装置 1 1 と、表示装置 1 2 と、記憶装置 1 3 と、プロセッサ 1 4 とを備えている。そして、プロセッサ 1 4 には、データ取得部 1 4 1 と、データ処理部 1 4 2 と、インデックス変換部 1 4 3 とが設けられている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

次に、図 2 に、ネットワークストレージ 3 やデータサーバ 4 に格納されるテーブルデータセットを示す。

図 2 a は、テーブル A のテーブルデータセットを、図 2 b は、テーブル B のテーブルデータセットを表したものである。

図示するように、テーブル A 2 0 0 のテーブルデータセットに含まれるテーブル A 2 0 0 は、複数のフィールド（図 2 a では、「性別」と「サイズ」）を持つレコードを行とする表であり、各レコードにはテーブル A 2 0 0 中の当該レコードの行の（図 2 a では、0 から 5 の）順番を示すレコード番号が付与されている。なお、レコード番号は 0 から始まる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 3】

以上、本発明の第 1 実施形態について説明した。

ここで、以上の実施形態では、単位変換処理において、VLCを作成してインデックスに含め、データ処理部 1 4 2 において、VLCが格納されていないインデックスについてはVLを用いて各処理を行い、VLCが格納されているインデックスについては、VLに代えてVLCを用いて、すなわち、VLCをVLと見なして用いて各処理を行うようにしたが、これは、単位

変換処理において、作成したVLCをインデックスに含める代わりに、作成したVLCを新たなVLとして、新たなVLでインデックス中のVLを置換するようにしてもよい。このようにすることにより、VLCが格納されているインデックスは無くなり、データ処理部142は、各インデックスを同様に取り扱い各種処理を行うことができるようになる。すなわち、この場合には、上述したUNIONにおける各レコード番号のフィールドの値の算定や、特定のフィールドに特定の値を持つレコードのレコード番号の算定などを、VLを用いて、VLの各エントリの値が単位変換の対象とならなかった他のインデックスと同様に行うことができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

すなわち、本第2実施形態では、インデックス変換部143は、データ処理部142が記憶装置13に格納したインデックスのうち、インデックスのVLに登録されている値の単位がローカル単位系の単位と異なる図6aに示すようなインデックスについて、図6bに示すように、当該インデックス中に、インデックスのVLのエントリ数と同数のエントリを持つCFと、インデックスのVLのエントリ数と同数のエントリを持つVLCを作成する。また、CFの各エントリに0を登録する。ここで、この段階では、インデックスのVLCの各エントリへの値の登録は行わない。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

次に、テーブルB250のフィールド「サイズ」のインデックスが図8bに示す状態にある場合、テーブルB250のレコード番号3のレコードのフィールド「サイズ」の値の取得は次のように行われる。